

令和5年度

第6回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和5年6月13日(火)
開会9時35分 閉会10時05分

場 所 教育委員室

令和5年度
第6回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 報 告

- ① 令和6年度教員採用選考試験の出願状況について
- ② 夜間中学模擬教室の実施について
- ③ 令和5年度地域との協働による高校魅力化推進事業について

【内 容】

1 出席者

教育長	岡 本 天津男
委 員 委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
委 員	岩 崎 哲 朗
委 員	高 橋 幹 雄
委 員	高 鈴 木 恵 代
委 員	岩 武 茂 代
事務局 理事兼教育次長	渡 辺 登
教育次長	三 浦 一 雄
教育次長	武 野 太
教育改革・企画課長	重 親 龍 志
教育人事課長	吉 雄 幸 平
義務教育課長兼幼児教育センター所長	小 野 勇 一
高校教育課長	山 田 誠 司
教育改革・企画課 総務企画監	小 野 裕 二
教育改革・企画課 課長補佐 (総括)	新 貝 隆
教育改革・企画課 主査	長 山 佳 史
教育改革・企画課 主任	久 知 良 周 平

2 傍聴人

6 名

開会・点呼

(岡本教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

それでは、ただ今から、令和5年度第6回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(岡本教育長)

本日の議事録の署名については、高橋委員にお願いします。

会期の決定

(岡本教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は10時00分を予定していますので、よろしくお願いします。

(岡本教育長)

議事に入ります前に、明日6月14日をもって、教員採用選考試験等に係る贈収賄事件から15年を迎えます。

冒頭、私から一言申し上げます。

平成20年6月14日の事件発覚以来、教育委員会をはじめ、教育関係者の皆さんとともに、一貫して教育改革に努め、様々な制度の見直しを行ってまいりました。特に、教員採用選考試験につきましては、常に「公平・公正・透明性」を第一に考えた試験を実施する姿勢は、変わることなく継承してまいります。

過去の事件を決して忘れることなく、他方で、未来志向の下、必要な改革に果敢に取り組み、その歩みを止めないことが、我々にとって重要なことであると考えています。

引き続き、時代の変化やその時々課題・要請に応えるための教育改革に取り組むとともに、目下の課題でもある教員の働き方改革などの環境整備も進めながら、「教育県大分」の創造に向けて、さらなる教育水準の向上を目指してまいります。

本県の「宝」とも言うべき、大分県の全ての子どもたちが未来を切り拓く力と意欲を身に付け、自己実現を図れるよう、常に子どもを中心に据えて、市町村教育委員会、学校現場の教職員と連携をしながら、「全国に誇れる教育水準」の達成を目指して、県教育委員会を挙げて取り組んでいきたいと考えております。

議 事

【報 告】

① 令和6年度教員採用選考試験の出願状況について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第1号「令和6年度教員採用選考試験の出願状況について」教育人事課長から説明をしてください。

(吉雄教育人事課長)

大分県公立学校教員採用選考試験の出願状況について、報告します。

資料1ページの2の「出願状況について」ですが、併せて1の「出願者数等」の表もご覧ください。

(1)の第1志望と第2志望とを合わせた「延べ出願者数」は、前年度に比べ全体で107人増の1,374人となりました。

(2)の実出願者数である「第1志望」の出願者数は、前年度に比べ全体で81人増の1,178人となりました。

(3)の第1次試験においては、今年度から新たに設置した大阪会場での受験希望者は129人となりました。

(5)の出願倍率は、平成29年度選考試験以来、7年ぶりに一般選考の全試験区分で上昇しました。

(6)は、1の表に記載していませんが、新卒の出願者数は、前年度に比べ83人増の496人となりました。

また特別選考ですが、今年度新たに設けた(8)の元県内正規教諭特別選考は4人、(9)の教職大学院修了者特別選考は20人の出願があり、特別選考全体では、昨年度に比べ13人増となっています。

出願者数増の要因としては、3「出願状況のまとめ」に記載していますが、今年度から新たに第1次試験において大阪会場を設置したことや、SNSなどを活用した広報活動の効果と考えています。

4「今後の日程」については、第1次試験が7月9日、第2次試験が8月5日から12日までの間の指定する日となっています。最終の結果発表は、9月15日を予定しています。

なお、各教科・科目等別の出願状況については、資料2ページにまとめています。

以上で、報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(鈴木委員)

大分県公立学校教員採用選考試験の出願状況が良く、嬉しく思います。中学校教諭を目指している臨時講師の方の話を聞いた際に、教員になりたい理由は、今まで学んできたことを子どもたちに還元したいからだと言っていました。その方が受けてきた大分県の教育が良かったからこそ教員になりたいという思いが強くなったのではないかと思います。

また、様々な採用活動が結果につながっていると感じました。SNS（ソーシャルネットワークサービス）での教員採用にかかる情報発信も大変だとは思いますが、見ている方にしっかり届いていると思います。

(高橋委員)

小中学校連携教諭の英語の出願者数が4人しかいませんが、理由を教えてください。

(田所主幹（総括）〔教育人事課〕)

小中学校連携教諭の英語に関しては、昨年度の出願者数は5名、一昨年度は2名であり、大きな変化はありません。受験者からは、小中学校連携教諭がどのような配置に就くのかなどの質問もあり、今後さらなる広報や説明が必要だと感じています。

(高橋委員)

小中学校連携教諭の保健体育等も少ないとは感じますが、英語の場合はグローバル人材の育成等とも連携してもらいたいので、今後もアナウンスを続けてほしいと思います。

(岩武委員)

今回の出願状況は、昨年から出願者を増やそうと多くの手を尽くしてきた結果だと思います。特に小学校の出願者の増加は安心しました。引き続き採用活動を継続してほしいと思います。

② 夜間中学模擬教室の実施について

(2課〔教育改革・企画課、義務教育課〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第2号「夜間中学模擬教室の実施について」義務教育課長から説明をしてください。

(小野義務教育課長)

夜間中学模擬教室の実施について、報告します。

1 ページの 2 「夜間中学模擬教室」をご覧ください。夜間中学設置を検討するため、対象者を掘り起こし、ニーズを把握することを目的とした夜間中学模擬教室を、県内 6 会場で実施します。

次に、3 「申込状況」をご覧ください。6 月 9 日時点で、計 9 人の申込がありました。内訳ですが、地区別で中津地区 0 人、別府地区 4 人、大分地区 2 人、佐伯地区 1 人、竹田地区 1 人、日田地区 1 人となっています。世代別では、40 代が 2 人、60 代が 2 人、70 代が 1 人、80 代が 4 人となっています。

続いて、4 「広報・周知」をご覧ください。広報・周知活動ですが、テレビ・ラジオは、NHK の昼のニュースや FM おおいた、実施地区のケーブルテレビ等で広報しています。新聞では、読売新聞、大分合同新聞、今日新聞に掲載されました。

また、多くの人に情報が届くよう、各市町村の広報誌への掲載をお願いしており、11 自治体の広報紙に掲載されます。資料では、7 市 3 町掲載となっていますが、現在 8 市 3 町になりました。

次に、2 ページの 1 「当日の日程」をご覧ください。

模擬教室は、2 日間続けて実施します。1 日目は、オリエンテーション、2 コマの授業、帰りの会です。2 日目は、オリエンテーション、1 コマの授業、帰りの会、個人面談を予定しています。

次に、2 「実施教科」をご覧ください。

模擬教室の運営は、義務教育課が行い、管内の教育事務所の指導主事が授業を行う予定です。授業の内容は、中学校 1 年生を想定し、小学校の内容も取り入れながら実施する予定です。また、参加者の学習の状況等に応じ、個別指導ができるよう義務教育課指導主事が対応します。

以上で、報告を終わります。

(岡本教育長)

申込の締切りは、いつまでですか。

(小野義務教育課長)

6 月 23 日までですが、模擬教室実施前まで参加を希望する方を受け入れたいと考えています。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(林委員)

国籍を問わないということですが、外国籍の方への周知は、どのように行っていますか。

(小野義務教育課長)

資料1 ページの4「広報・周知」をご覧ください。おおいた国際交流団体ネットワーク会議が6月24日に開催されます。この会議にはインドネシア友好協会、ネパール友好協会、諸外国の友好協会の方が一同に会する場になっています。この会議に義務教育課職員が参加し、周知を行っていきたいと考えています。

(鈴木委員)

私が経営する会社では、技能実習生が働いています。学校に通ったことがあっても、出身国によっては基礎的な学力が身に付いていない方が多く、掛け算ができないなどの差を感じます。特別な技能を身につけていたり、留学して来たり、恵まれた環境で育った外国人の方は学力が高いですが、技能実習生の中で、お金を稼ぐために日本に来ている方は、学力が低く、なかなか次のステップに上がれずにいます。

例えば、技能を上げていく試験では、試験の問題が難しく、日本の農業科の高校生が勉強するレベルの問題が出題されることから、学科試験で落ちている状況です。日本語の理解が難しく、倍率の計算やパーセンテージの計算ができないなど、基礎的な学力が定着していないため、教えてもできないことが多くあります。

そういった人達にこのような取組が広がり、特別な技能を身に付ければ、より働きやすくなると思います。

(高橋委員)

この取組はすごく良いと思います。2ページの実施教科の時間割で、数学が2時間ある理由を教えてください。

(小野義務教育課長)

基本的には、各教育事務所の中学校の教科の教員免許を所持している指導主事が授業を行うようにしています。そのため別府教育事務所では、数学を2時間実施しますが、できるだけ違う内容の授業を行うようにお願いしています。

(岩武委員)

参加申込のあった方の中には、年齢の高い方もいます。外国籍の方や、学齢期に中学校の教育を十分に受けられなかった方も申込みの対象と思いますが、主な申し込みの理由を教えてください。

(小野義務教育課長)

現在申し込まれている方の中には、外国籍の方はいませんが、中学生の時に十分に勉強できなかったのも、再度学びたいという方もいます。今後は、外国籍の方にも広く周知していきたいと考えています。PR活動をしながら、一人でも多くの方に参加していただくよう努めていきます。

③ 令和5年度地域との協働による高校魅力化推進事業について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第3号「令和5年度地域との協働による高校魅力化推進事業について」高校教育課長から説明をしてください。

(山田高校教育課長)

地域との協働による高校魅力化推進事業について報告します。

資料の1ページをご覧ください。

本事業は、学校の特色化を図る取組を行うことで、地域に信頼され、中学生に選ばれる魅力ある学校づくりを推進することをねらいとしており、平成28年度から取り組み、本年で8年目を迎える事業です。

概要ですが、対象は大分市・別府市以外の高校で、1校最大3つのプロジェクトに取り組み、高校の魅力づくりを推進しています。今年度は継続実施となる18校に、新規採択として安心院高校を加えた19校を採択しました。

2ページ目には、令和5年度の各校の主な取組を一覧でまとめています。

資料1ページにお戻りください。昨年度の取組の具体例を紹介します。国東高校では、地域の課題探究として高校や国東市のPR動画を制作し、地域への魅力発信を行いました。また、国東市や商工会議所と連携した「くにさき創生タイムプロジェクト」では、地元企業と協力し商品開発に取り組んでいます。

竹田高校ですが、地域探究具現化プロジェクトと題し、地域へのフィールドワークを通じた地域密着型学習により、地域の課題の解決策を提言し、実行する取組を行っています。他にも部活動や学習サポーターを通して、地域の中学生との交流に積極的に取り組んでいます。3ページ目をご覧ください。昨年度の地域探究具現化プロジェクトの具体的な取組として、竹田市ふるさと納税返礼品の掲載サイトへの改善を実行した例を掲載しています。

続いて4ページをご覧ください。部活動を通じた地元中学生との交流の様子を掲載しています。中学生からも大変喜ばれて、お礼の寄せ書きももらっています。

5ページ目には、高校生による進路講話や学習サポーターの取組を紹介しています。中学校に高校の先生が出向き、学習のサポートをする際に、竹田高校の生徒が学習サポーターとして入り、チームティーチングのような形で生徒の学習を支援するという取組です。

1ページ目にお戻りください。昨年度は各学校の取組により、採択校18校中12校において欠員者数減少という成果が得られました。そのうち、中津北、国東、三重総合、竹田の4校で10名以上の欠員者数減少となりました。採択18校の令和5年度入試における欠員数についてですが、先ほど例に挙げた国東高校

では、令和4年度入試と比べて欠員者数が30名減少し、竹田高校については10年ぶりに定員が充足するなど、成果も上がっています。

今後も、生徒自ら地域がかかえる課題に取り組む意欲の醸成と課題解決能力の育成のため、各校の円滑な計画実施を支援し、定員確保をはじめとする成果につなげたいと思います。

以上で、報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問、ご意見はありませんか。

(岩崎委員)

先日、九州地方教育委員会会議が鹿児島県で開催されましたが、その場でも人口減少の中で、高校をどのように魅力あるものにするかという話が出ました。大分県の取組も非常に高い評価をいただきました。

大分県は全県一区の中で、各高校が地域の課題解決に取り組み、また中学校と連携することで高校の魅力化に努めています。そのような取組によって、地域の中学生が地域の高校に入学し、入学定員を維持していく成果が出ています。他県では全県一区ではない地域もある中で、大分県は非常に良くやっているということで、ぜひ今後も続けていただきたいと思います。

(鈴木委員)

竹田高校では、竹田市内の中学生へのサポートや交流を行っているということでしたが、竹田市内だけではなく、豊後大野市など近隣の地域から竹田高校を希望する生徒が増えています。竹田市で取り組んだことが周りにも広がっている感じがしていますし、何よりも、現在、竹田高校に通っている先輩達の「高校が楽しい」という言葉を中学生が聞くことで、自分も竹田高校に入学したいという気持ちになったと思います。

保護者も、地域の子どもが通って楽しそうにしているなら、自分の子どもも通わせたいという思いになっていることが分かりました。取り組んでいることは、市内への発信という形になっていますが、実はもっと周りにも広がっているということや、定員を充足しているということ、さらにアピールしても良いのではと思います。

(高橋委員)

前向きな取組の発信が、成果として現れているのではないかと思います。久住高原農業高校の生徒の体験談や充実した環境を、他県から来る生徒にももっと発信すると良いと思います。

発信するにあたり、以前は企業も1年・3年・5年のスパンで大きな計画を進めていましたが、今は1ヶ月・3ヶ月・半年・1年と短いスパンで様々なことを考え

なければいけなくなっています。上手くいかなければ修正すればよいので、教育委員会も企業と同じように、できることはどんどん前向きにやっていけばよいと思います。

(岩武委員)

地域の課題に対する探究活動で、成果が出ているということで良いと思います。今の大学入試では、探究型の学習を中心とした取組はとても評価されていて、総合型選抜や普通の入試においても注目度が非常に高いです。

大学への入学実績が、普通科を選ぶ際の一つの基準にもなりますし、高校を選択する際に、非常に大きな判断材料になると思います。今行っている探究活動を大学入試と結びつけた形でPRしたら良いのではないかと思います。資料の中にあまり記載がありませんでしたのが、そのような形で進めているとは思いますが、もっとクローズアップしていくと良いと思います。

(山田高校教育課長)

いわれるとおりで、昨今、国公立大学の現役合格率が上昇傾向にある一つの要因としては、この総合型選抜の活用ということが挙げられています。実際に探究的な学びを活用している学校もありますが、さらに低学年次からこの学びを戦略的に進路実績につなげられるように、意識をもって生徒、教員ともに取り組むように学校には指導しています。

(岡本教育長)

最後にその他、何かありますか。

それではこれで、令和5年度第6回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。